

2012年「サラウンドの日」ホームシアターセミナー&体験視聴会より

“ホームシアター”を楽しもう!!

パナソニック株式会社エコソリューションズ社
住環境商品営業企画部空間事業推進グループ

白岩 紀人

“ホームシアター”と聞くと多くの人には「専用室が必要」、「高価な機器が必要」、「一部の人のみの趣味」など、特別なモノで一般の住宅には合い入れないモノのイメージがあるようですが、“ホームシアター”を既に一般の住宅で満喫されている方々の事例から、特別なモノでは無い“ホームシアター”の楽しみ方を紹介します。

1. “ホームシアター”とは？

今回、紹介する“ホームシアター”は、「映画館を自宅に持ち込む事」ではありません。アメリカなどでは、自宅に映画鑑賞専用室があるようですが、日本の住宅事情を考えると、「映画館やホール・スタジアムで味わえる、その感動を持ち込む事」ができるリビングルームを“ホームシアター”と呼んでいます。

例えば、①映画館のように画面に没入できる空間

②コンサートホールのアリーナ席に居るよう音楽が楽しめる空間

③スタジアムのように応援の歓声に包まれる空間

上記、①②③にあたかも居るような感動が生まれる場所にできる仕掛けを、普段使いのリビングと調和するように組み込むことです。



図1 シアタールームとしてのリビング



図2 普段使いのリビング

2. “ホームシアター”の色々な楽しみ方

◆ 映画やコンサートライブを楽しむ基本

テレビでもプロジェクター&スクリーンも同じですが、外光や照明で映像が見え辛くなるとその映画やコンサートに没入できなくなりますので、「画面への映り込みを無くすこと」「画面と視聴位置の間に強い光が入ってこないこと」をポイントにカーテンや照明器具の確認をしてみましょう。

また、スクリーンやプロジェクターは、使用しない時に収納できるモノを選ぶと、普段のリビ

ングに違和感が生まれません。

スピーカは、テレビ内臓のモノでは無く、サラウンドセットなどと呼ばれているスピーカセットなどを、映画や番組の製作者が設定している位置にスピーカを配置することで、サラウンド（臨場）感や移動感を味わうことができます。



図3 スクリーン利用時



図4 普段のリビング



図5 スクリーン収納

◆ スポーツ観戦

プロジェクター&スクリーンの大画面なら、多人数で楽しむ時に大いにメリットがあります。特にリビングにある大画面の醍醐味は、スポーツ観戦です。

大画面なら、集まった全員が画面を観ることができますし、スタジアムの歓声がサラウンドで広がるので、全員で感動と興奮を共有することができます。

運動会のビデオも大画面なら、当日気付かなかった周囲の景色や変化を見つけることもできます。



図6 スポーツ観戦で仲間と楽しむ

◆ 大画面でのゲーム

体感型ゲームを大画面で楽しむと、本当にそのゲームの中に居るような錯覚を感じることができます。

写真の家族の事例では、家族でゲームを楽しむ機会が増え、ソファを移動させる手間以上に家族のコミュニケーションが増えたことをメリットに感じていらっしゃるそうです。



図7 体感型ゲームで家族とのコミュニケーション

3. “ホームシアター”の事例

◆ 工夫で生まれたホームシアター

100インチのスクリーンを設置するには、部屋の大きさや窓や扉位置の条件など、配慮課題がありますが、見事にスクリーンのある“ホームシアター”を実現された事例を紹介します。

スクリーンの設置位置は、2階への階段の前です。一般的には、スクリーン設置位置にはしませんが、この場所に設置することで、ソファの位置の設定やキッチンからもテレビが観れることの解決ができました。

また、シアターを楽しむ時は、家族団らんの時なので、階段がふさがれるデメリットは無いそうです。



図 8 普段のリビング



図 9 スクリーンで楽しむシアター



図 10 テレビで楽しむシアター

◆ 和テイストのホームシアター

窓に障子をしつらえ、和テイストにまとめたリビングなので、オームシアターは無理では、と心配されていましたが、テレビとサブウーファ以外を綺麗に収納することで、普段のリビングそのままに、ホームシアターを実現しました。収納家具に、AV アンプ、レコーダー、L・R・C の各スピーカを収納し、サラウンドスピーカは天井に埋め込み設置しています。



図 11 和テイストのシアター



図 12 スピーカの配置

◆ テレビとラックシアターで構成したホームシアター

量販店で購入できる機器で構成されたホームシアターですが、テレビ画面は、南面のベランダからの光が映りこまないテレビの配置とテレビ背面の光を和らげる格子が視聴環境づくりに効果的です。サラウンド環境は、5.1ch のスピーカをルール通りに配置されています。



図 13 ラックシアターで構成したシアター



図 14 スピーカの配置

夜の配慮としては、テレビの背面とソファの背面に設置したスタンド照明器具（水平ライト）が、テレビの視聴環境づくりとリビングの雰囲気づくりに効果を発揮しています。



図 15 ホリゾンタルライト



図 16 照明効果

4. ライティングの効果

◆ ホームシアターで重要なあかり

ホームシアターのあかりには、3つの重要な役割があります。

- ① 視聴に適したあかり：テレビ画面と周囲のあかりのバランスが悪いと目への刺激が強くなり目が疲れやすくなりますので、周囲も明るくする配慮が必要です。
- ② 利便性を高めるあかり：手元が暗いとリモコンの操作や関連資料の確認ができません。そこで、手元には、光が拡散しないスタンド照明などがお薦めです。
- ③ 演出のあかり：臨場感や映画に集中する為には、テレビ周囲に対し、床面の照度を落とすことで演出効果を高めることができます。

この3つの役割を意識して、ご自宅のホームシアターを構成してみてください。

◆ 4変化するリビング

ホームシアターの場合、視聴環境を整える為に、照明器具の照度を調整できる「調光スイッチ」を組み合わせることが多くありますが、この時に、調光レベルを複数プリセットできる「調光スイッチ」にしておくことで、リビングがさらに有効に利用できる空間にできます。右の写真は、4つのシーンのプリセットと全消灯のボタンがある調光スイッチです。



図 17 プリセットできる調光スイッチ

具体的な例として、「テレビを楽しむあかり」「プロジェクター&スクリーンのあかり」「お酒や音楽を楽しむあかり」「ふだんのあかり」の4つのシーンについて紹介します。

◆ テレビを楽しむあかり

テレビ画面は輝度が高いので、テレビ周囲が暗いと、目が疲れやすくなりますので、テレビの背面が明るくなるように、テレビ上部のスクリーン収納部に照明を組み込みテレビ背面照明としました。

また、お部屋全体の明るさは、天井面を照らすことで確保しています。



図 18 テレビで楽しむあかり

◆ プロジェクター&スクリーンのあかり

プロジェクター利用時は、周囲を暗くする必要がありますが、コンテンツの解説やリモコンの操作をする為に、手元が明るくしておく便利です。

手元のあかりは、天井に設置した集光型のダウンライトで確保しています。この時、顔の前に光が照らされると、画面が見辛くなりますので、ソファの肘掛辺りが照らされるように配慮すると画面への影響がありません。



図 19 プロジェクター&スクリーンのあかり

◆ お酒や音楽を楽しむあかり

テレビを視聴しない時も、天井側を暗くし、床に少し明るいポイントがあると落ち着いた雰囲気演出できます。またお気に入りのアイテムをライトアップするなど、ホテルのラウンジのような雰囲気づくりもできます。ホームシアター用に複数の照明器具と調光スイッチを組み込んでいますので、このようなシーン作りもできます。



図 20 お酒や音楽を楽しむあかり

◆ ふだんのあかり

普段は、影が少なく、全体的にあかるくしておくことで爽快で清潔感のあるリビングとなります。

(参考)パナソニック株式会社ホームページをご覧ください。

<http://www.sutekina-kukan.com>



図 21 ふだんのあかり

筆者プロフィール

白岩 紀人 (しらいわ のりと)

所属：パナソニック株式会社エコソリューションズ社
住環境商品営業企画部空間事業推進グループ